

講義ユニット名	泌尿器	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	まつばら あきお 松原 昭郎	所属	泌尿器科 (内線 5240)
		メール	matsua@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	ていしま じゅん 亭島 淳	所属	泌尿器科 (内線 5242)
		メール	teishima@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>泌尿器科学は、尿路と精路の疾患を診断し、治療する専門分野である。なかでも、前立腺肥大症、前立腺癌、腎細胞癌、尿失禁は、高齢化社会において増加しており、さらに近年の内視鏡・低侵襲手術の進歩は著しく、臨床医はこれらを理解し、正しい泌尿器科学の知識を修得する必要がある。</p> <p>本ユニットの講義では、泌尿器科疾患への理解を深め、泌尿器科領域において、臨床医として必要な基本的知識を確立することをめざす。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>男性生殖器の発育の過程を説明できる。</p> <p>男性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。</p> <p>陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>勃起不全と射精障害を概説できる。</p> <p>精巣機能障害を概説できる。</p> <p>腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。</p> <p>尿流動態検査を説明できる。</p> <p>精巣と前立腺の検査法(尿路造影、超音波検査、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>)の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>蓄排尿の機序を説明できる。</p> <p>腎尿路の主な先天異常(多発性嚢胞腎、膀胱尿管逆流)を概説できる。</p> <p>腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿路外傷の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿路結石の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿路の炎症(膀胱炎・前立腺炎・尿道炎)の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿失禁の病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>神経因性膀胱を概説できる。</p> <p>男性不妊症を概説できる。</p> <p>前立腺肥大症の診断と治療を説明できる。</p> <p>停留精巣、陰嚢内腫瘍を概説できる。</p> <p>前立腺癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>精巣腫瘍の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>性感染症の原因微生物を説明できる</p> <p>梅毒の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>淋菌感染症の診断と治療を説明できる。</p> <p>性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの診断と治療を説明できる。</p> <p>腎癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>膀胱癌を含む尿路上皮癌の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>腎盂・尿管腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。但し、不適格問題(正解率の不良な問題)は除外する。		

推奨参考書

【購入を推奨する参考書】
標準泌尿器科 香川征 監修 赤座英之、並木幹夫 著 医学書院
【その他、学習に有用な参考書等】
初回講義時にプリントを配布するので、内容を精読すること